

令和6年度射水市ひきこもり支援対策事業の取組状況

1 ひきこもり当事者及び家族のサポート事業

(1) 相談事業

ア 射水市ふくし総合相談センターすてっぷ（令和2年7月開設）

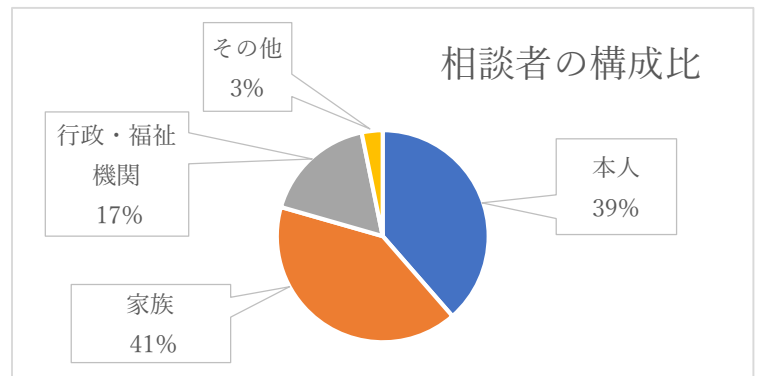
開設場所	社会福祉法人射水市社会福祉協議会内 (射水市戸破 4200 番地 11 救急薬品市民交流プラザ 2 階)
開所日時	月曜から金曜日まで（土日、祝日、年末年始を除く。） 午前9時～午後5時
電 話	5 5 - 5 2 0 4（ひきこもり相談専用回線）

- ・すてっぷでは、社会福祉士、精神保健福祉士の資格を有する主任相談員、相談支援員、就労支援員、アウトリーチ支援員の4名体制で、ひきこもりの状態にある方やその家族へ相談支援を行い、適切な支援に結びつけている。また、定期面談や定期連絡を行うなど、信頼関係を築きながら支援を進めている。
- ・アウトリーチ支援員を中心に、当事者やご家族に対し、状況に応じて電話や訪問による状況確認を行うなど、丁寧な支援に努めている。

(2) 相談状況

ア 相談者の内訳（延べ件数）

区分	R5 年度	R6 年度
本人	258	216
家族	154	229
行政・福祉機関	119	97
その他	16	18
合計	547	560

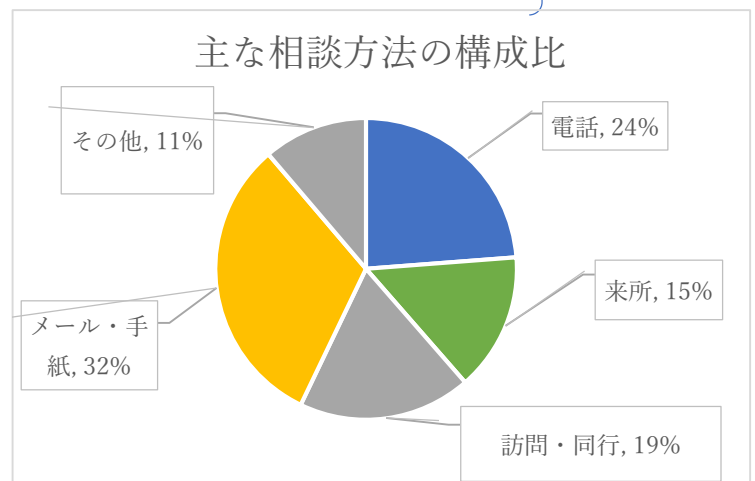


- ・相談者の内訳は、主に本人や家族からの相談が全体の80%を占めている。

イ 主な相談方法

（延べ件数）

区分	R5 年度	R6 年度
電話	165	133
訪問・同行	127	104
メール・手紙	92	177
関係機関の相談等	85	63
来所	78	83
合計	547	560



- ・電話が 24%、訪問・同行が 19%、メール・手紙が 32%、関係機関の相談等が 11%、来所が 15%など、様々な方法により相談を受けている。

(ア相談者の内訳、イ主な相談方法から)

- ・メールは家族との相談対応、来所相談は本人との直接面談・家族との直接面談がそれぞれ増えている。初回相談から数年経ち、直接会って話せる状況になるケースが増えている。
- ・依然として本人に会えないケースは、家族支援として、メールや面談で定期的に連絡を取っており、絶えず気をかけ、家族支援を重視して行っている。

ウ ひきこもり当事者の性別

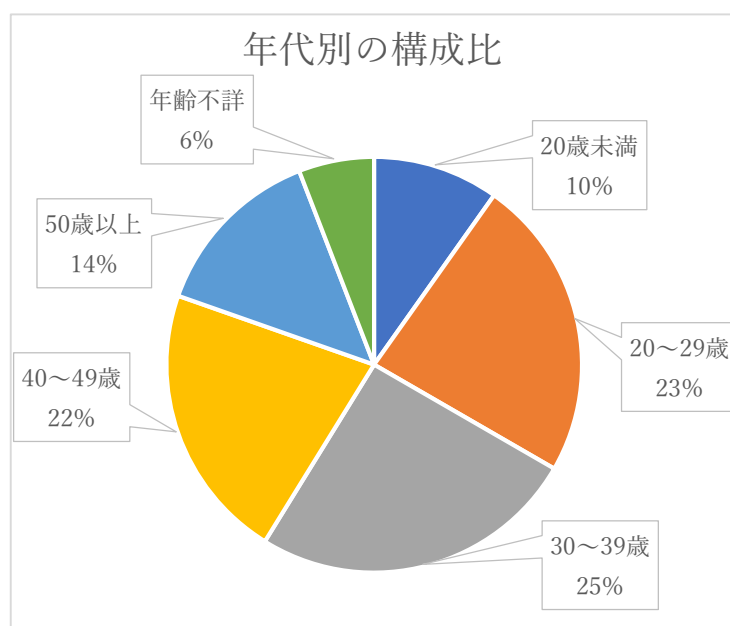
(実人数)

区分	R5 年度	R6 年度
男 性	34	34
女 性	15	17
不 明	0	0
合 計	49	51

エ ひきこもり当事者の年代別

(実人数)

区 分	R5 年度	R6 年度
20 代未満	5	5
20 代	12	12
30 代	12	13
40 代	13	11
50 代以上	7	7
年齢不詳	0	3
合計	49	51

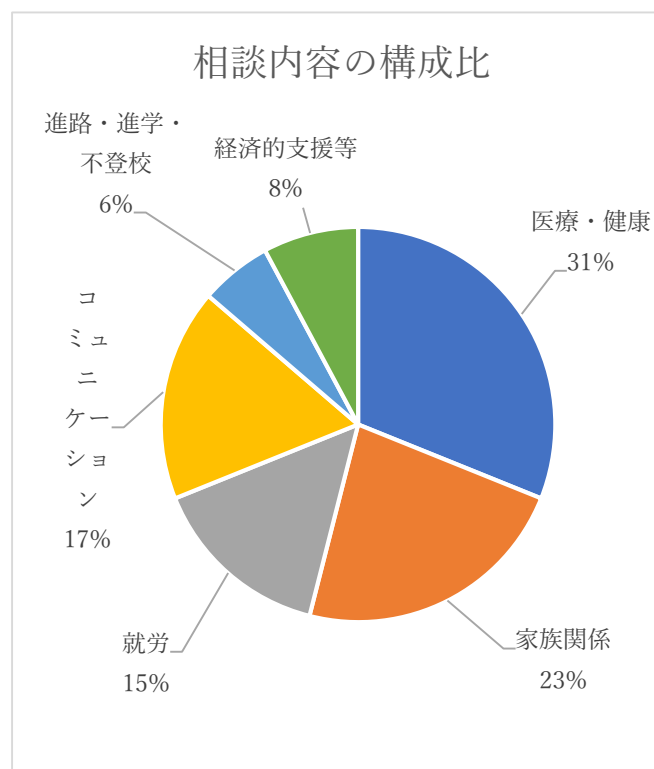


- ・年代別では、20 歳未満が 10%で、20 代・30 代・40 代が 20%代で推移しており、50 歳以上が 14%である。

オ 主な相談内容

(重複あり、延べ件数)

区分	R5 年度	R6 年度
医療・健康 (心) (身体) (障がい)	230 (123) (86) (21)	227 (100) (52) (18)
家族関係 (本人) (家族)	136 (73) (63)	167 (102) (65)
就労	89	109
コミュニケーション (家族) (家族以外)	83 (53) (30)	127 (41) (86)
進路・進学・不登校	38	43
経済的支援等	16	57
合計	592	730



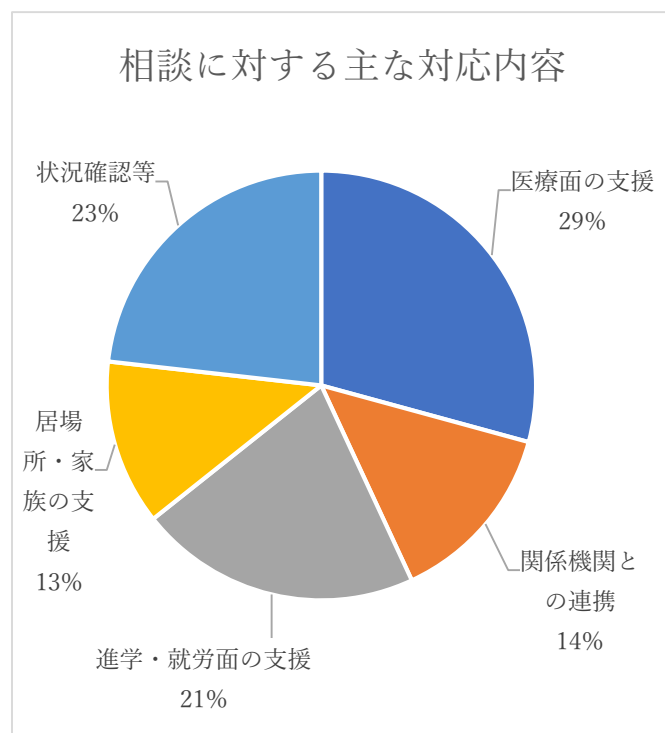
- ・家族以外にかかるコミュニケーションの相談は、前年度 30 件から 56 件増加している。他者からどう見られているかに不安を持つ本人が多く、孤独感からくる不安や対人関係の不安で悩む相談が多い。
- ・1 回の相談で複数内容の相談を受けることが多く、それぞれの内容に応じた対応を行っている。

カ 相談に対する主な対応内容

(重複あり、延べ件数)

区分	R5 年度	R6 年度
医療面の支援	285	209
関係機関との連携	145	99
進学・就労面の支援	141	152
居場所・家族の支援	76	89
状況確認等	109	166
合計	756	715

- ・状況確認等は、相談を受けた後、電話やメール、訪問等により本人の身の回りで起きた出来事を確認し、生活状況の把握するために行っている。
- ・本人、家族の動き出すタイミングを待ち、気にかけて続けるため、こちらから連絡を取り、状況確認を行っている。



キ 新規相談者数の状況 (人数)

区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度
新規相談者数 (うち初回相談のみ)	27 (10)	35 (25)	32 (23)

(3) 有資格者・専門職（社会福祉士、精神保健福祉士、臨床心理士）による専門相談会

・毎月第2火曜日開催（午後1時30分～4時30分）

年間12回開催（救急薬品市民交流プラザ（12回）、~~新湊交流会館（3回）~~）

実績

区分	令和5年度	令和6年度
開催回数	12回	12回
相談件数	29件（延人数48人）	25件（延人数38人）

令和5年度から新たに障がい福祉サービス事業所の主任相談支援専門員が相談員として加わった。相談対応したひきこもり状態の中には、障害福祉分野の支援や医療受診の必要性を強く感じるケースが多かった。

※ 出張相談会

日時	場所	件数・人数
9/25(水)13:30～16:30	大島コミュニティセンター	2件 3人
11/8(金)13:30～16:30	新湊交流会館	当事者4人・家族1人
1/18(土)13:30～16:30	S o n d e い家	3件 3人

11月8日は出張相談会とすてっぷカフェの合同開催を初めて実施した。定例のすてっぷカフェ以外で、ひきこもりサポーター7名に居場所づくりの準備から協力いただいた。

(4) 居場所の提供、家族支援

ア すてっぷカフェ

ひきこもりなど生きづらさを抱える方が、それぞれ自由に過ごす場所

- ・毎月第3木曜日 午後1時30分～3時30分
- ・年間12回
- ・主な活動内容・・・ひきこもりサポーターと交流する、抱えている悩みを話す、ゲームや読書をする、ゆっくり過ごす。

実績

区 分	令和5年度	令和6年度
開催回数	12回	12回
参加者数	延66人	延85人

イ すてっぷカフェ家族会

当事者のご家族が集まって自由に過ごし、ご家族同士が交流してリフレッシュできる交流の場所

- ・毎月第4土曜日 午後1時30分～3時30分
- ・年間12回（うち、勉強会3回含む）

交流の場（勉強会3回含む）

区 分	令和5年度	令和6年度
開催回数	12回	12回
参加者数	延70人	延47人

- ・専門機関の有資格者を招き、ひきこもりに対する理解を深める勉強会を開催した。

勉強会

区分	内容	講師	参加者
第1回 (7/27)	本人とのコミュニケーションの仕方（実践編）	特定非営利活動法人 りばていーOne 理事長 坂本 美奈子氏	9人
第2回 (8/24)	家族の役割、親として本人への寄り添いについて考える	特定非営利活動法人 りばていーOne 理事長 坂本 美奈子氏	8人
第3回 (11/30)	家族同士が集い、語り合うことの大切さ（家族会の有効性）	ひきこもり家族自助会 「とやま大地の会」 山岡 和夫氏	6人

（5）事業の周知啓発及び情報発信

ア 広報紙

- ・市報「広報いみず」（毎月）
- ・社協広報「福祉いみず」（年4回：5月、8月、11月、2月）

イ ホームページ

- ・市社会福祉課、市社会福祉協議会
- ・厚生労働省「ひきこもり VOICE STATION」・・・ひきこもり支援機関として紹介
- ウ 市LINE公式アカウント、X（エックス：旧ツイッター）の活用

エ 各種事業のチラシの配布等

- ・市役所（本庁舎、地区センター、図書館）、市内コミュニティセンター
- ・介護及び障がい福祉サービス事業所、医療機関（精神科、心療内科等）

オ 会議、研修会等での事業説明

- ・11/9・10 第18回KHJ全国ひきこもり家族会連合会・実践交流研修会
分科会1「8050問題と他機関連携」
- ・1/25 ゲートキーパーネットとやま 令和6年度研修会第5回 講師
- ・1/31 社会福祉協議会実践研究発表会

※主なものを掲載

(6) ひきこもりサポーターの養成

ア ひきこもりサポーター養成研修

	内容	講師
9/5 場所：救急薬品市民交流プラザ 10:00 ～ 16:30	ひきこもりサポーターの役割	市社会福祉課
	射水市ひきこもりサポーター令和5年度活動状況について	市社会福祉協議会
	当事者や家族とのコミュニケーション～また話したいなと思われる支援者になるために～	(医社)あずさ会 川田病院 公認心理士・臨床心理士 石黒 美幸氏
	支援者・当事者の話を聞いて理解を深めよう	特定非営利活動法人はあとぴあ 21 理事長 高和 正純氏
	ひきこもりの理解	(医社) 仁清会 グリーンヒルズ若草病院 院長 片町 隆夫氏
	ひきこもりサポーターの心構えや自分たちにできること	学校法人浦山学園 富山福祉短期大学 社会福祉学科 講師 中村 尚紀氏

- ・受講された方へ修了証を交付している。

令和6年度養成研修修了者 24人

- ・修了者にひきこもりサポーターへの登録を依頼している。

イ ひきこもりサポーター勉強会（4回開催：13時30分～15時45分）

区分	月日	内容	参加者数
第1回	11/1	講義 ひきこもりについて改めて考えてみよう ～SOSの出せない背景～ ロールプレイ・グループワーク	12人
第2回	12/6	講義 様々な場面でのコミュニケーション ～こんな時どうするの～ ロールプレイ・グループワーク	10人
第3回	1/17	講義 社会資源って何だろう グループワーク	9人
第4回	2/14	1年間を振り返ってみよう サポーター体験談	13人

ウ ひきこもりサポーターフォローアップ研修（令和6年12月6日開催）

講師 富山福祉短期大学 社会福祉学科 講師 中村 尚紀氏

講義「様々な場面でのコミュニケーション～こんな時どうするの～」

ロールプレイ・グループワーク 受講者数 10人

《参加者からの感想》

- ・当事者やその家族の話を聞く際は、肯定や否定をせず感謝の気持ちを持つことが大切だということを学んだ。
- ・サポーター養成講座受講を機会に、人脈や仲間を作ることができた。これからもこの縁を大切にしたい。

令和7年3月末時点のサポーター登録者数 51人（前年度末：46人）

（7）ひきこもりサポーターの派遣

延べ人数 76人（すてっぷカフェ 37人、家族会 39人）

【主な活動内容】

- ・会場設営、片付けなど居場所の運営
- ・参加者とのコミュニケーション（散歩、ボードゲーム、軽作業など）
- ・すてっぷ家族会勉強会や座談会での家族の話の傾聴

2 当事者の自立支援

（1）生活困窮者自立支援制度

ひきこもり状態にある方の多くは、家族の扶養下にあり、現に困窮していることは少ないが、将来、扶養する方がいなくなってしまう状況を見据え、困窮の「おそれ」があるひきこもり状態にある方を本制度の支援対象者として、早期支援を行う。

（2）就労準備支援事業（生活自立支援、社会参加支援等）

既存の雇用の枠組みでの支援になじまない方を対象に、一般就労に向けた準備を計画的に行い、当事者のニーズや状態に応じた支援を実施する。

具体的には、市内福祉事業所や一般企業の協力を得て、ひきこもり状態にある方へ就労機会の提供や就労体験を促し、社会参加から就労まで支援を行う。

- ・協力事業所
市内地域活動支援センター 4カ所
協力事業所（市内5事業所）継続5カ所
- ・相談者数 6名（うち心理検査実施者5名）
- ・延相談支援件数 151件

就労準備の一環で、すてっぷの相談員が心理検査（WAIS-Ⅲ）を行い、作業能力・得意不得意などの適性の分析結果をもとに、相談者本人と振り返りを行った。

その結果、自身を見つめ直すきっかけとなり、自身が目指す生き方や、社会との関わり方等を決めていく一助となった。中には仕事探しに活用し、ハローワークを通じて体験就労や障害者雇用につながった方もいた。

3 ひきこもりワーキング部会

【日時・場所】

日時：令和6年10月16日（水） 午後1時30分～3時

場所：市役所本庁舎 401会議室

【事例報告】

「OVER15居場所支援事業について」

講師：特定非営利活動法人はあとぴあ21 理事長 高和 正純氏

【出席者】

部会員9名、事務局5名

【部会での意見】

- ・ひきこもりの長期化を防ぐための早期支援の必要性
- ・福祉と教育分野の連携
- ・地域や家族に向けたひきこもりに対する正しい理解や支援に関する情報発信